

よなごスマートライフ・プロジェクト推進事業における 防災・減災 EMS蓄電システム

自治体(米子市)とケーブルテレビ局、市民が連携し、

「放送・通信・エネルギーの融合」による「新たな生活価値の創出」に取り組んでいる。

古河電気(株)はICTと連携可能なEMS(エネルギー管理システム)蓄電システムを提供。

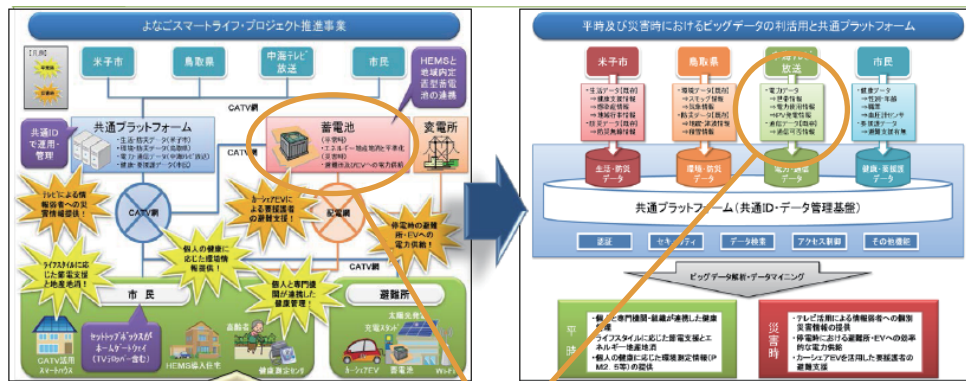
エネルギー地産地消システムにより、災害時は災害情報の早期提供と電力供給。平常時は個人毎の健康管理や節電支援などにも役立てている。

背景

2011年の東日本大震災などの災害時を想定した防災・減災対策として、米子市自治体、ケーブルテレビ局、市民が連携して、エネルギー地産地消システムに取り組む。ビッグデータ及びICT(共通ID・共通プラットフォーム)活用による連携で、災害時・平常に役立つ蓄電システムや、ICTと連携した情報提供で、災害情報はもちろん健康管理などにも役立てている。

概要

「鳥取県次世代社会モデル創造特区」で「防災・減災 EMS蓄電システム」を推進。EV(電気自動車)、及びHEMS(電力センサ)、TVテロップ、太陽光発電、蓄電池、EV充電スタンド、健康測定センサと、CATV網、共通データ管理基盤により、平常時は個人毎の健康管理や節電支援・エネルギーの地産地消を、災害時は災害情報の早期提供と電力供給、要援護者支援を行う。



古河電気は、ケーブルテレビの双方向網を介して、共通プラットフォームと連携可能なEMS対応型ICT機能付き蓄電システムと、EV連携可能な蓄電システムを提供している。

出典：総務省
http://www.soumu.go.jp/soutsu/chugoku/hodo_2014/01sotsu08_01000194.html

アピールポイント

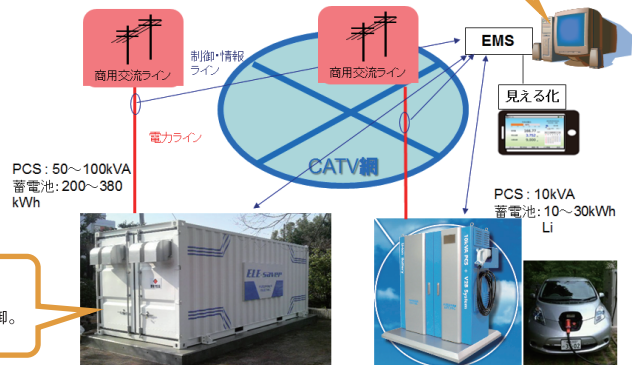
〈製品概要、アプリケーション〉

太陽電池、EVの蓄電池、大容量蓄電池を用い日中の電力ピークを抑えるスマートエネルギーシステム。

〈EMSシステムの特徴〉

- 商用交流ラインと接続状態でEVから放電可能
- 複数のPCSをコントロール、消費電力の予測制御
- 消費電力のグラフ化、コスト表示で見える化

家30件分の消費電力をモニターし、エリアでピークを抑える為に米子市役所や淀江支所に設置した蓄電システムをコントロール。



中海テレビの回線を使用して電力情報をモニター・集計して制御。